



用賀中だより

令和8年6月吉日

ようがの学び舎

世田谷区立用賀中学校

目玉焼きに何をかける？— “普通” の違いを認め合う学校づくり

ようがの学び舎 世田谷区立用賀中学校 校長 毛利 慎治

6月は、いじめ防止や人権について改めて考える大切な時期です。本校では、生徒一人ひとりが安心して生活し、自分らしく成長していくために、日々の教育活動の中で「人権」や「子どもの権利」について考える機会を大切にしています。

先日の全校朝会では、少し身近な話題として、「目玉焼きに何をかけるか」という問いから話を始めました。

あるアンケート調査では、33,063 人の回答をもとに、目玉焼きにかけけるものとして最も多かったのは「しょうゆ」で52.3%、次いで「塩」21.9%、「ソース」7.6%、「こしょう」4.7%、「マヨネーズ」3.5%、「何もかけない」3.3%、「ケチャップ」2.7%という結果が示されています。

この結果を見ると、「目玉焼きにはしょうゆ」と考える人が多いことが分かります。しかし、一番多いものが「正解」というわけではありません。しょうゆをかける人にとっては「しょうゆ」が普通かもしれません。塩をかける人にとっては「塩」が普通かもしれません。何もかけない人にとっては「そのまま食べる」ことが普通かもしれません。つまり、「普通」は一つではないということです。

これは、目玉焼きの食べ方だけの話ではありません。学校生活の中にも、同じことがあります。人前で発表することが得意な生徒もいれば、大きな緊張を感じる生徒もいます。休み時間に大勢で過ごすことが楽しい生徒もいれば、静かに過ごすことで安心できる生徒もいます。困ったときにすぐ相談できる生徒もいれば、なかなか「助けて」と言葉にできない生徒もいます。

自分にとっての「普通」が、相手にとっても同じ「普通」であるとは限りません。

「普通、これくらいできるでしょ」「普通、そんなことで傷つかないでしょ」「このくらい冗談でしょ」。こうした言葉は、言った側に悪気がなかったとしても、相手の心を傷つけてしまうことがあります。いじめは、特別な悪意だけから始まるとは限りません。「自分たちの普通」と違うものを笑ったり、からかったり、排除したりすることから始まることもあります。

世田谷区では、子どもの権利について、「子どもは生まれながらにして、自分らしく幸せに生きる権利があること」、また「大人は子どもの思いを受けとめ、一人ひとりの子どもの豊かな育ちをサポートすること」を大切な考え方として示しています。

「自分らしく幸せに生きる」ということは、みんなが同じ「普通」に合わせなければならないということではありません。一人ひとりの感じ方、考え方、安心できる場所、得意なこと、苦手なことはそれぞれ違います。その違いを笑わないこと、否定しないこと、違いを理由に一人にしないことが、人権を大切にすることにつながります。

もちろん、「自分らしく生きる」ということは、何でも自分の思い通りにしてよいという意味ではありません。自分に権利があるように、友達にも同じように権利があります。自分の思いを大切にしてほしいなら、友達の思いも大切にします。自分の「普通」を認めてほしいなら、友達の「普通」も認める。そのような相互尊重の姿勢が、安心できる学校づくりの基盤になります。

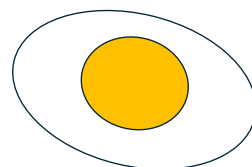
本校では、6月上旬に各学級で一齐に、さかなクンの話をもとにした道徳教材「魚の涙」を扱いました。この教材では、水槽の中の魚の様子を通して、集団の中で起こる人間関係について考えます。私たちの生活の中でも、気付かないうちに誰かを一人にしてしまったり、周囲の雰囲気によって流されてしまったりすることがあります。だからこそ、生徒たちには、「自分はどの関わるのか」「誰とでも公平に付き合うとはどういうことか」「安心できる人間関係をつくるために何ができるのか」を考えてほしいと願っています。

道徳科の授業は、単に「いじめはいけない」と確認する時間ではありません。教材を通して登場人物の思いや状況を考え、友達の意見を聞き、自分の考えを見つめ直す時間です。そして、最終的には「自分ならどうするか」「これからの生活でどのように行動するか」を考える時間です。

本校では、今後も道徳科の授業を中心にしながら、全校朝会、学年集会、学級活動、行事、委員会活動、部活動など、学校生活全体を通して、人権教育を進めてまいります。特に、誰とでも公平に関わること、相手の違いを認めること、安心できる人間関係をつくることを大切にしていきます。

また、教職員は日々の生活の中で、生徒一人ひとりの様子を丁寧に見取り、必要な声かけを行っていきます。表情、言葉数、友人関係、授業中の様子、休み時間の過ごし方など、子どもたちは日々さまざまなサインを出しています。その小さな変化に気づき、「大丈夫?」「何か困っていることはない?」と声をかけることは、生徒にとって大きな安心につながります。みんなの普通は、みんな違う。

このことを、生徒たちが知識として理解するだけでなく、日々の行動の中で実感できるようにしていきたいと考えています。用賀中学校では、これからも道徳科の授業、全体道徳、学級での対話、日常的な見守りと声かけを通して、生徒一人ひとりが安心して生活し、自分らしく成長できる学校づくりを進めてまいります。ご家庭でもぜひ、「自分にとっての普通」と「相手にとっての普通」は同じとは限らないということについて、お子様と話題にいただければ幸いです。



心地よい風の中、きらめいた汗と笑顔の運動会

昨年とは違って、5月16日（土）の運動会は天気恵まれ、無事に開催することができました。5月の割にはかなり日差しが強く暑い1日でしたが、時折吹く風がとても心地よかったのを覚えています。「おやじの会」の皆様が背負い式シャワーで校庭内をぐるぐる歩き回ってスプリンクラーの代わりにしていただいたり、暑がっている生徒を涼しくしてくださったりして、熱中症を防ぐことができました。

また、「ゆずり葉」クラブの皆様には受付を担当していただき、保護者の皆様の対応をしていただきました。皆様、ご協力いただき、ありがとうございました。

さて、プログラム1番の準備運動の後にはプログラム2番の「用中クエスト」ですが、この種目は、ゲーム「ドラゴンクエスト」から名付けられ生徒から大人気の競技です。4人の協力が欠かせません。1人目はボールを玉入れの入れ物に入れ、入ると2人目がそのボールを持ってハードルをくぐったり、跳んだりした後に3人目がラケットの上にボールを乗せて走り、4人目は麻袋でジャンプしてゴールするという種目です。最初からとても盛り上がり、応援にも熱が入りました。団体競技もさることながらこのようなゲーム感覚の競技も見応えがありました。

今回、各学年の「学年だより」から「練習すればするほどクラスが団結していくのを感じて楽しかった」「行事を通していろいろなことを学んだ」という振り返りを書いた生徒が多く見られ、スローガンの「せいしゅん星瞬～輝かせようみんなのキズナ～」のように、生徒が主人公になって輝いていたことがとてもうれしく感じられた1日でした。保護者の皆様、応援ありがとうございました。



4月29日（水）世田谷区中学校春季陸上競技大会 表彰式！

【男子】	3D 千田 寛大	共通 400m	第5位
	2C 大場 喜八	共通 800m	第8位・共通 3000m 第6位
	1D 窪内 新太	1年 100m	第1位
【女子】	3A 森脇 亜海	共通 200m	第7位
	3C 熊澤 美織	共通 100m ハードル	第8位
	3D 久米 紡生	共通砲丸投	第6位
	1A 松崎 瑛里奈	1年 100m	第2位・共通 800m 第3位
	3A 森脇 亜海・3B 中村 珠凜ヤボア・3C 熊澤 美織・3D 水野 紅葉	共通 4×100m	第6位



ただいま、部活動の公式戦が行われています。

運動部の3年生にとっては引退試合となるので、一瞬一瞬を大事にして試合に臨んでいます。

「第1回進路説明会」がありました！

いよいよ3年生として自分の将来について考えなければいけない時期となりました。自分は将来何になりたいのか、そのなりたいものになるためにはどんなことをしなければならないのか、そして、どのような学校に行けば自分の夢に近づけるのかなど、色々と悩める時期だと思います。説明会を通して親子で生徒の将来について話す機会を設け、夏休みの面談までに親子の意見をまとめていただければと思います。

6月18日（木）は「多様な進路を考える会」、7月11日（土）はPTA 家庭教育学級主催の「高校受験に関する講演会」もあります。ぜひこれらの会を通して、進路について真剣に考えてほしいです。

また、気になる学校があれば、インターネットで調べ、学校見学会の日程を確認し、実際に見て来ることでも大事です。将来の選択肢を広げるためにも真剣に考え、何かに参加してみたいかがでしょうか。

「引き取り訓練」ご協力ありがとうございました！

平日にもかかわらず、多くの保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。災害や大地震等が起きた場合、年度当初にご提出いただいた「集団下校・引き渡し確認カード」に記載されている引き取り者のみ、生徒の引き渡しが可能になります。また、6月20日（土）は用賀中学校避難所運営訓練を行いますので、生徒の皆さんにも参加していただく予定です。